グラナイトコンパレータスタンド

はじめに

ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みの上、正しくお使い下さい。また本書はお読みになった後も、いつでも見られる所に大切に保管して下さい。本製品の仕様及び本書の内容は、将来予告無しに変更することがあります。万一弊社の製造販売に起因する不具合が、お買い上げより一年以内に発生した場合、無償修理いたしますのでお求めの販売店、営業所までご連絡下さい。

海外移転に関するご注意

本製品は、「外国為替及び外国貿易法」の規制対象品です。本製品やその技術を海外移転する場合は、事前に弊社にご相談ください。

各種の注意について

重要

・ 目的を達成するために必要な情報を示す注記です。
・ この指示に従わない場合、本製品の性能を損なう可能性あるいは維持することが困難になる可能性があることを示します。

注記

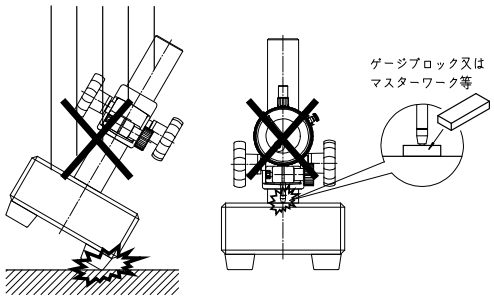
・ 本文の重要な点で、特に強調または補足すべき情報や特定の操作に関してご留意頂きたい事柄があることを示します。

■使用環境について

● 温度は0～40℃、湿度は30～70%の環境下で、結露させぬ様注意してご使用下さい。
● ほこりや油、オイルミストが少なく、また直射日光の当らない場所でご使用下さい。

■使用上のご注意

● 本体を落下または転倒させない様に十分ご注意下さい。また落下等で衝撃が加わった時は、精度等を点検後にご使用下さい。
● ブラケット部の上下摺動が滑らかである事を確認して下さい。また各部品取付け部等のネジが緩んでいない事を確認して下さい。
● 石定盤に水分や油が付着した場合は、長期間放置せず布などで拭き取って下さい。精度劣化の原因となります。
● 石定盤上面に局部的な集中荷重を加えないで下さい。測定面が欠損し測定に悪影響を及ぼす可能性があります。測定の際、右図のように測定子で石定盤面上に衝撃を与えますと、インジケータや石定盤面の破損原因となります。また、測定子が直接石定盤面に繰返し接触するようなご使用法もなさらないよう、予めご留意下さい。インジケータのゼロ合わせ時には、右図のようにゲージブロック等をご利用頂くことをお勧めします。やむを得ず測定子を定盤に直接接触させてご使用の場合は、急激に測定子を定盤面に落下させない様お願い致します。
● 定盤面に、測定子の繰返し接触などにより万一小さな痕を付けてしまった場合には、ブラケットを回転させて、測定子が打痕位置を避けるようにしてご使用下さい。
● 当社以外で修理･分解･改造等を行われた場合には、当社による保証はできません。



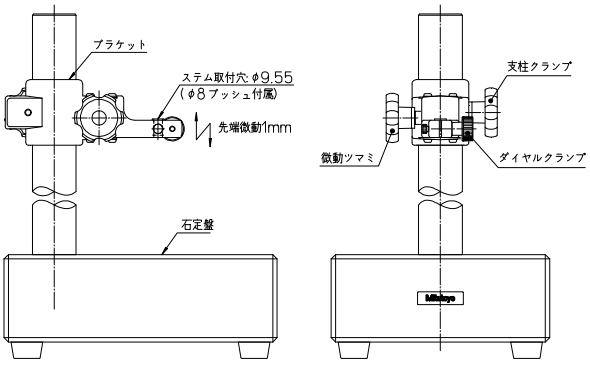
■各部の名称及び使用方法

〇本器は、別売のダイヤルゲージやデジマチックインジケータを取付け、高精度かつ迅速に、外径や厚み及び段差などを測定するため考慮された便利なスタンドです。石定盤を採用しているためカエリや盛り上がりが無く、平面度の狂いも生じません。

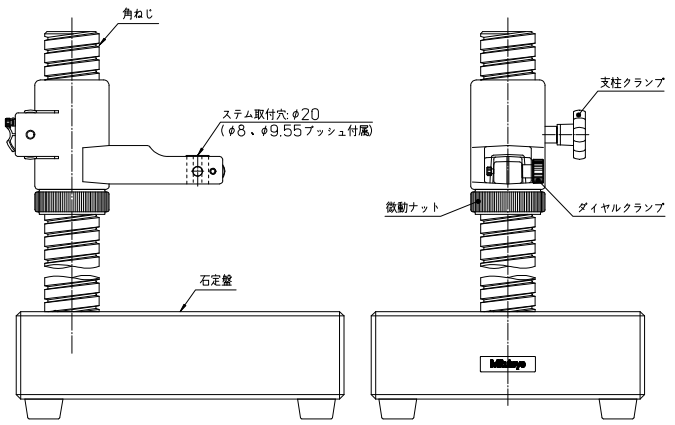
〇操作法はまずブラケット部を持ち、支柱クランプを緩め支柱の最上部付近までブラケットを持ち上げた後、再度支柱クランプを締めて、ブラケットを固定します。ダイヤルクランプを緩め、ダイヤルゲージ等のステム部分をブラケットに差し込み、ダイヤルクランプを締め固定します。支柱クランプを緩め、ダイヤルゲージ等の測定子がゲージブロック等または石定盤面に接触する位置までブラケットを下げます。この際急激に落下させない様、必ず手を添えてブラケットを少しずつ下げるようにして下さい。

〇ブラケット先端部に微動機構のある製品(No.215-150-10/215-151-10/215-153-10)の場合には、支柱クランプを固定し、微動ツマミにてインジケータを上下微動できます、微動ツマミを回して測定位置を微調整して下さい。角ねじにて微粗動を行う製品(No.215-156-10)の場合には、支柱クランプを緩めたまま、微動ナットにてブラケットを上下動させ、所定の位置で再度支柱クランプを締めて下さい。

215-150-10
215-151-10
215-153-10



215-156-10



●ダイヤルゲージ等の各種ステムの寸法に対応できるように、保持用ブッシュを本体に組み込み又は付属しています。保持用ブッシュはねじにより回転・抜け防止を行っておりますので、サイズ変更の際にはねじを緩めてからブッシュの交換又は抜き差しを実施して下さい。交換又は抜き取ったブッシュやねじなどは、無くさないよう大切に保管して下さい。

●ブラケット移動の際には必ず手でブラケットを保持し操作して下さい、ブラケットを自由落下させると石定盤や支柱の破損原因となります。

■ 保守点検・修理について

● 石定盤面の汚れは、乾いた布かアルコールを少量含ませた布で拭き取ります。
● 支柱やブラケットは錆び易くなっております、長時間使用されない場合には支柱等に防錆油を塗布し、湿度の低い場所に保管下さい。
● 本器の性能劣化は使用状態に大きく左右されます。お客様での使用頻度・環境・使用法等を考慮された上で、社内規格等に周期を定め、定期的に点検される事をお勧めします。

Mitutoyo
Mitutoyo Corporation
Kawasaki, Japan
http://www.mitutoyo.co.jp